子宮内フローラ検査　結果報告書

患者ID(被験者コード)	： 0000001	医療機関名	：Varinosクリニック
患者氏名	： バリノス　フローラ	担当医師	：針乃須　太郎 先生
生年月日	： 1980年01月01日	依頼日	：2020年04月14日
年齢(採取時)	： 40	受付日	：2020年04月14日
採取日	： 2020年04月14日（初回）	報告書作成日	：2020年12月09日

検査結果 ※1

採取部位	採取時期	ラクトバチルス率	カテゴリー ※2
子宮 (メドジンピペット)	P+5	**100.0 %**	**LDM**

検査結果コメント　最終的な治療の決定は、本検査のみで判断せず、他の臨床所見等とあわせてご判断ください。

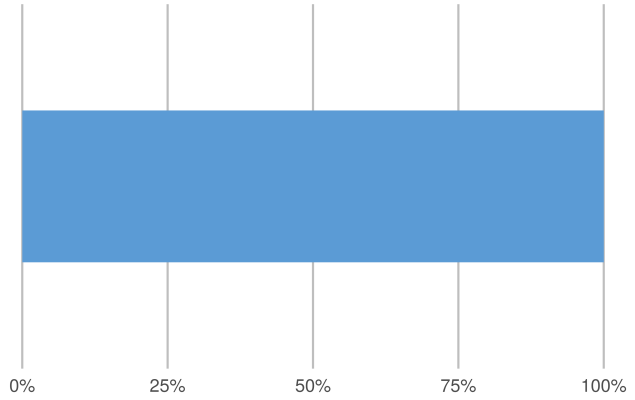
Lactobacillus属の割合が高く、環境は良いと考えられます。

SAMPLE

参考：菌叢プロファイル

	菌名 ※3	占有率 (%)	一般的な抗菌薬候補* (必ずしも抗菌薬の使用をおすすめするものではありません)
1	Lactobacillus	100.0 %	
2	Others	0.0 %	
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

参考：菌叢グラフ



検査結果の見方

本検査は属レベルの細菌の占有率を推定しています（属：「種」の上位に位置する生物分類学的階級）。

「検査結果コメント」および「菌叢プロファイル」の注釈について
- *　弊社提供資料「細菌性腟症に関連する菌の参考資料」をご参照ください。
- **　Otsuki K. et al., Biochem Cell Biol. 2017, 95:31-33
- ***　Kyono K. et al., Reprod Med Biol. 2019, 18:72-82

※1 以下の種の細菌に関しては試薬や環境中にも存在するため、解析結果から除外しています。本検査では検出することができません。
Unclassified Acinetobacter, Unclassified Afipia, Cupriavidus metallidurans, Cutibacterium acnes, Elizabethkingia miricola, Oryzomicrobium terrae, Pandoraea apista, Phyllobacterium myrsinacearum, Pseudomonas extremorientalis, Ralstonia pickettii, Serratia marcescens, Stenotrophomonas maltophilia

※2 カテゴリーの略名は以下のとおりとなります。
- ・NLDM (Non-Lactobacillus Dominant Microbiota)：ラクトバチルス率90%未満
- ・LDM　(Lactobacillus Dominant Microbiota)：ラクトバチルス率90%以上

※3 次世代シークエンサーで検出された細菌を補足情報として提供しています。「Unclassified」は属レベルの情報が不明な細菌の合計、「Others」は占有率が0.1%未満の細菌の合計を表しています。

※4「判定不能」とは、弊社判定基準を満たしていない場合に表示されます。再採取をおすすめいたします。検体中の細菌量が少ないなどの原因が考えられます。

備考

子宮内フローラ検査　結果報告書

患者ID(被験者コード)	： 0000002	医療機関名	：Varinosクリニック
患者氏名	： バリノス　フローラ	担当医師	：針乃須　太郎 先生
生年月日	： 1980年01月01日	依頼日	：2020年04月14日
年齢(採取時)	： 40	受付日	：2020年04月14日
採取日	： 2020年04月14日（初回）	報告書作成日	：2020年12月09日

検査結果 ※1

採取部位	採取時期	ラクトバチルス率	カテゴリー ※2
子宮 (メドジンピペット)	P+5	**0.0 %**	**NLDM**

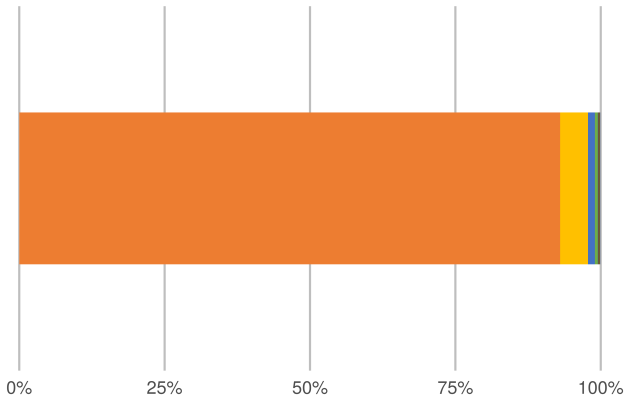
検査結果コメント　最終的な治療の決定は、本検査のみで判断せず、他の臨床所見等とあわせてご判断ください。

Lactobacillus属の割合が低く、環境が乱れていると考えられます。また、細菌性腟症の原因菌を含む属*が検出されています。その他の所見等により腟や子宮内の感染が疑われた場合には、抗菌薬等による治療をご検討ください。研究段階であり臨床的な意義は明らかではありませんが、ラクトフェリン 600~700mg/日の摂取**、または抗菌薬とラクトフェリン・プロバイオティクスの併用による環境の改善が報告されています***。

参考：菌叢プロファイル

	菌名 ※3	占有率 (%)	一般的な抗菌薬候補* (必ずしも抗菌薬の使用をおすすめするものではありません)
1	Lactobacillus	0.0 %	
2	* Gardnerella	93.0 %	メトロニダゾール(MNZ), クリンダマイシン(CLDM)
3	Staphylococcus	4.8 %	
4	Corynebacterium	1.2 %	
5	* Prevotella	0.5 %	メトロニダゾール(MNZ), β-ラクタマーゼ阻害薬配合ペニシリン系薬, カルバペネム系薬
6	* Mobiluncus	0.1 %	メトロニダゾール(MNZ), クリンダマイシン(CLDM)
7	Dialister	0.1 %	
8	Lawsonella	0.1 %	
9	* Finegoldia	0.1 %	クリンダマイシン(CLDM), カルバペネム系薬, メトロニダゾール(MNZ)
10	Others	0.1 %	
11			
12			
13			
14			
15			

参考：菌叢グラフ



検査結果の見方

本検査は属レベルの細菌の占有率を推定しています（属：「種」の上位に位置する生物分類学的階級）。

「検査結果コメント」および「菌叢プロファイル」の注釈について
- *　弊社提供資料「細菌性腟症に関連する菌の参考資料」をご参照ください。
- **　Otsuki K. et al., Biochem Cell Biol. 2017, 95:31-33
- ***　Kyono K. et al., Reprod Med Biol. 2019, 18:72-82

※1 以下の種の細菌に関しては試薬や環境中にも存在するため、解析結果から除外しています。本検査では検出することができません。
Unclassified Acinetobacter, Unclassified Afipia, Cupriavidus metallidurans, Cutibacterium acnes, Elizabethkingia miricola, Oryzomicrobium terrae, Pandoraea apista, Phyllobacterium myrsinacearum, Pseudomonas extremorientalis, Ralstonia pickettii, Serratia marcescens, Stenotrophomonas maltophilia

※2 カテゴリーの略名は以下のとおりとなります。
- ・NLDM (Non-Lactobacillus Dominant Microbiota)：ラクトバチルス率90%未満
- ・LDM　(Lactobacillus Dominant Microbiota)：ラクトバチルス率90%以上

※3 次世代シークエンサーで検出された細菌を補足情報として提供しています。「Unclassified」は属レベルの情報が不明な細菌の合計、「Others」は占有率が0.1%未満の細菌の合計を表しています。

※4「判定不能」とは、弊社判定基準を満たしていない場合に表示されます。再採取をおすすめいたします。検体中の細菌量が少ないなどの原因が考えられます。

備考

SAMPLE